

文部科学省 共同利用・共同研究拠点

立命館大学アート・リサーチセンター 日本文化資源デジタル・アーカイブ
研究拠点 2014年度 共同研究成果報告書

2015年4月30日 提出

1. 研究課題名	
京都盆地を対象にした文化資源デジタル・コンテンツの利活用と流通を促進するプラットフォーム構築 (英文標記: Promoting utilization and circulation of Japanese cultural digital resources based on Virtual Kyoto)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
奥窪 宏太 (おくくぼ こうた)	凸版印刷株式会社 文化事業推進本部
3. 研究分担者 (合計: 11名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付けてください	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
矢野桂司 (やの けいじ)	立命館大学文学部教授
川嶋将生 (かわしま まさお)	立命館大学名誉教授
塚本章宏 (つかもと あきひろ)	徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授
河角龍典 (かわすみたつ のり)	立命館大学文学部教授
河原大 (かわはら だい)	(株) キャドセンター
矢口浩平 (やぐち こうへい)	ESRI ジャパン (株)
福島幸宏 (ふくしま ゆきひろ)	京都府立総合資料館
西山剛 (にしやま つよし)	京都府京都文化博物館
佐伯敬太 (さえき けいた)	凸版印刷株式会社文化事業推進本部 文化事業推進部 部長
加茂竜一 (かも りゅういち)	凸版印刷株式会社文化事業推進本部 部長
中島基道 (なかじま もとみち)	凸版印刷株式会社 文化事業推進本部 文化事業推進部 係長

4. 研究課題の概要 (300 字程度)	(申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>本研究では、これまで様々な機関において作製されてきた京都の有形無形の文化資源デジタルコンテンツを集積させ、それらを流通・活用させるためのプラットフォームを構築する。</p> <p>このプラットフォームを通して、様々な文化観賞シーンにおけるユーザ体験を向上させることはもちろん、それによって文化資源のデジタルコンテンツの蓄積がさらに促進されるという、文化資源の宝庫である京都ならではのデジタル・アーカイブ・スパイラル(循環)を創出し、さらにそれらを相互に利用することによって、それらを素材とした新たなデジタルコンテンツの構築を促進させる。</p> <p>また、そうした文化資源デジタルコンテンツの流通や活用に関する著作権などについても検討する</p>	
5. 研究成果の概要	(この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2014 年度の研究では、翌年度のプラットフォームテスト公開に向けた基礎資料として、京都盆地を対象にした文化資源デジタルコンテンツの利活用と流通を促進するプラットフォームのβ版構築に向けた<1. 先行事例の情報収集・分析>と<2. プロトタイプ制作>を実施した。</p> <p><1. 関連する項目についての調査></p> <p>(あ) 既存のデジタルアーカイブプラットフォームについての先行事例情報収集・分析</p> <p>(い) 既存の京都関連のデジタルアーカイブデータについて情報収集</p> <p>(う) メタデータのありかたについての検証</p> <p>(え) デジタル・アーカイブの権利処理・課金システムについての先行事例情報収集</p> <p><2. 先行事例を活用したプロトタイプ制作></p> <p>(あ) 京都盆地 GIS の汎用 WEB プラットフォーム (ArcGIS へのバーチャル京都の移植)</p> <p>(い) 2D と 3D 地図を重ね層化した GPS 連動文化財情報アプリ</p>	
6. 研究業績	
<p>(1) 著書</p> <p>(2) 論文</p> <p>(3) 研究発表等</p> <p>・「京都をプラットフォームとした文化資源デジタル・コンテンツの利活用と流通の促進に関する研究」、2015/3/2、立命館大学アート・リサーチセンター日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点 2014 年度共同研究プロジェクト全体カンファレンス、立命館大学アート・リサーチセンター、奥窪宏太</p> <p>(4) 主催したシンポジウム・研究会等</p> <p>(5) その他研究活動 (報道発表や講演会等)</p> <p>(6) 受賞学術賞</p> <p>(7) 科学研究費助成事業</p> <p>(8) 競争的資金等 (科研費を除く)</p> <p>(9) その他</p>	